

内閣官房及び内閣法制局・内閣府本府入札等監視委員会

第23回会議議事概要

開催日及び場所	第23回会議 平成26年10月3日(金) 中央合同庁舎第8号館8階特別中会議室
委員	委員長 國廣 正 (弁護士) 委員 今井 猛嘉 (法政大学大学院法務研究科教授) 委員 長岡 美奈 (公認会計士) 委員 寺田 麻佑 (国際基督教大学大学院アーツ・サイエンス研究科准教授)
議事	○平成26年度 第1四半期の契約に係る審議 ○その他

○平成26年度 第1四半期の契約に係る審議		
審議対象期間	平成26年4月1日～平成26年6月30日	
対象案件の説明	<p>○対象期間における契約の全体(内閣官房86件・内閣法制局5件・内閣府347件)について事務局から説明</p> <p>○審議案件抽出の考え方について当番委員から説明 抽出にあたっての関心事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1者応札の案件について、1者応札となった理由を確認する。</li> <li>・落札率が100%および低い案件について、予定価格が適正に積算されているか確認する。</li> </ul> <p>さらに以下の観点から各案件を絞込み</p>	
審議抽出案件	3件	
【競争入札】 最低価格落札方式	(府)1件 (関心事項) 警備業務について特別な業務ではないため1者応札等の理由を確認する。	契約件名：内閣府庁舎別館の警備業務 契約相手：テイケイ株式会社 契約金額：36,158,400円 契約日：平成26年4月1日 担当部局：大臣官房会計課
【競争入札】 最低価格落札方式	(府)1件 (関心事項) 落札率100%の案件について予定価格作成の考え方を確認する。	契約件名：平成26年度 スクリーニング・除染拠点における傷病者対応業務 契約相手：株式会社メディカルアソシア 契約金額：27,198,072円 契約日：平成26年4月1日 担当部局：政策統括官(防災担当)

<p>【競争入札】 最低価格落札方式</p>	<p>(府) 1件 (関心事項) 本件の他、一般財 団法人青少年国際交 流推進センターが1 者応札となった理由 について確認する。</p>	<p>契約件名：平成26年度 青少年国際交流事業の活動充実強化 における支援業務 契約相手：一般財団法人青少年国際交流推進センター 契約金額：25,761,130円 契約日：平成26年5月22日 担当部局：政策統括官（共生社会政策担当）</p>
<p>委員からの意見・質問 それに対する回答等</p>	<p>別紙のとおり</p>	
<p>委員会による意見の 具申又は勧告の内容</p>	<p>なし</p>	

別紙

意見・質問	回答
<p><b>1 内閣府庁舎別館の警備業務</b></p>	
<p>警備業務は、前年度も同じ業者が行っていたのか。</p>	<p>そのとおり。</p>
<p>予定価格の作成方法は、何者から見積を取ったのか。それとも、これまでの情報があるから、例えば面積から予定価格を作成したのか。</p>	<p>基本的に人件費となるため見積でなく、どの場所に何人配置するか計画を立て、配置計画に対して労務単価をかける方法で予定価格を作成した。</p>
<p>警備業務は、単価なり、配置が分かれば大体の予定価格は想定され、価格は固定してしまう方向に行くことから、実績に基づき若干ディスカウントした予定価格を作成するなど工夫を検討してはどうか。</p>	
<p>この案件は、最低価格落札方式としては予定価格が低めに設定されており、良いことだと思うが、警備に配置される人の質、どのように機動的に対応できるかということを見ると、総合評価の方法も検討すると良いと思う。</p>	

2 平成26年度 スクリーニング・除染拠点における傷病者対応業務

<p>事業の開始から3年間、同じ業者が落札し契約した状況から見て競争が発生し得ない状況であることは明らかのため、随契にして価格交渉をするという選択肢はないか。</p>	<p>本業務の業務地について各社が考えているほどリスクがないことを説明していくことで一般競争入札参加者を増やしたい。</p>
<p>市場がそもそもないような業務については、ある程度柔軟に行う方が良くと思う。</p>	
<p>契約方式としていけないと思うが、実際、市場がないところで無理やり一般競争入札を行ったが、実際は競争がない。一般競争は偉い、随契は悪いというドグマが抜き難くあるから、何としても一般競争だという発想に陥っているのではないかと一部思われる。むしろ、大事なものは実質であって形ではないという発想を持ってもいいかと思う。</p>	<p>複数年1者応札が続いているものについては、慎重に検討の上、随契に移行するという方針もある。</p>
<p>競争入札制は維持すべきということも言えるので、実証的に随契を行い検証してみてもどうか。</p>	

3 平成26年度 青少年国際交流事業の活動充実強化における支援業務

<p>実際にこのような業務をやる団体は他にも想定しているか。</p>	<p>実際にそういう交流事業を請け負っているところがあると聞いている。過去に説明に関心を示した業者があると聞いたことはあるが、現実に入札に参加する参加者は1者だけである。</p>
<p>何年ほど同じ事業者が続けて落札しているか。</p>	<p>一般競争入札にしてから7年間。</p>
<p>1者入札で入札回数が複数回だが、なぜか。</p>	<p>予定価格に達しないため、再度入札を何回が行った。</p>
<p>例年同じ事業を同じ業者が行うと、1者でもノウハウがあるという見方ができる反面、完全にマンネリ化する可能性もある。それを打ち破るのは随契で価格を精査したり、あるいは競争ということになるので、競争自体を一切捨ててしまえと言うわけではないが、何かそこに明確な指針がないまま一般競争、単に価格だけというのは何か変な気がする。 一般競争入札の最低価格落札方式は価格しか見えないし、仕様書が固定的なものなので、注文をつける、検証する、よりバージョンアップを求めるなどのやりとり、交渉、要請、要求というように質を高めるチャレンジの入れ物とすると、一般競争は必ずしも適切でなく、随契の方がむしろいいとも考えられる。 この事業は、事業の内容が幅広いことから質を維持する部分は随契にして、その他の部分については一般の民間業者が参入できる場所は価格中心に入札してみると、全体として競争意識が煽られて、より良いものが出来そうな気がする。</p>	<p>これまで1者入札を解消する方向で検討してきた。今日、いろいろな観点の意見があったので、それらを含めて、近々調達アドバイザーに相談したい。</p>
<p>調達アドバイザーに今回の議論について意見をもらい、キャッチボールで委員会に戻して議論してみたい。</p>	

○その他

- ・ 「再委託の問題」、「調達に関する事項の情報共有」について事務局から説明。